

I 総合「思いやりってなあに」(1組)

1 学習の概要

4年生では、半田市の「ふくし共有」の考えのもと、「ふくし」について実感をもって捉えられるように、校区内のひいらぎ特別支援学校と「なかよし交流」をしたり、ふくし学習教室で実践体験をしたりしています。

ひいらぎ特別支援学校には、知多半島、刈谷、西三河地区から、身体の不自由な子が通って来て学習しています。小学生は59人いて、手足に不自由さのある子や車椅子を使う子がいます。「なかよし交流」は2～3人でペアを組んで活動을します。個々の関わりから、「出会い・ふれあいの場」をつくり、協働して関わることで、できることとできないことをお互いに出し合い、認め合えるのではないかと考えます。障がいについて考えること、障がいがあっても充実した生活を送っていることに直接触れさせることで、力強く生きていることや自分たちと何も変わらないことを感じ取り、共に生きていこうとする心を育みたいと考えて実践しました。

2 ねらい

- ひいらぎ特別支援学校の児童とペアを組み、いろいろな集団活動を通して、児童の生活経験を広げることができる。
- ペアとの関わりを通して、特別支援学校や身体の不自由な人やへの理解を深め、相手を思いやる気持ちをもつことができる。

3 取り組み

- (1) 第1回なかよし交流会に向けて、自己紹介カードを作る(6月)

初めに、交流会の前に顔を知ってもらうために、互いの学校で自己紹介カードを作りました。写真を貼ったカードに、名前や趣味、特技、好きなものを書きました。6月3日に招待状を持って来校してくれた、ひいらぎ特別支援学校の6年生と、自己紹介カードの交換をしました。大放課中の来校だったので、校内を周り、体育館、教室、特別教室などを案内し、交流しました。



代表者がお出迎え

- (2) ひいらぎ特別支援学校の先生の授業を受ける(6月15日)

楽しく交流するための事前学習として、ひいらぎ特別支援学校の先生が、来校してくださり、学校の概要や接し方を学びました。身体の不自由なペアの友だちのペースに合わせてゆっくりと活動することやゆっくりと車椅子を動かす理由を聞きました。また、話すことができない子でもしっかり聞いていて、さまざまな反応を返してくれることや、話しかけたり手を握ったりすると喜んでくれることなどを学びました。呼吸を助ける器具等を付けている子もいる状況や対応の仕方を聞き、心の準備ができました。

- (3) 第1回なかよし交流会(6月24日 ひいらぎ特別支援学校にて)

① 対面式

体育館では、ひいらぎ特別支援学校の全校児童の出迎えがあり、挨拶の後、「ともだち賛歌」を歌とダンスで歓迎してくれました。雁宿小の4年生は、リコーダーと歌で「パフ」を元気よく演奏し、「ラバースコンチェルト」を優しく歌ってお返しをしました。



パフを披露



ラバースコンチェルト

② ペアさがしゲーム

楽しい曲に合わせて歩き、自分の自己紹介カードを持っているペアを探しました。初めての出会いに、緊張しながら挨拶や握手をしました。



ペアさがしゲーム



出会えたね!

③ グループ別活動

各教室では、ひいらぎの友だちと一緒にできる活動をして遊びました。どう接したらよいかと戸惑っていた子もいましたが、次第に慣れ、ペアと仲良くできました。

④ お礼の手紙交換

1回目の交流会のお礼を手紙に書いて交換しました。

- (4) 第2回 なかよし交流会に向けて

① 反省とめあてをふせんに書く

トライシートで交流を振り返り、できたことやできなかったことを考え、意見交流を行いました。自分の課題を自分自身で見つけ、めあてをもちました。それを付箋に書き、「ことば・心・行動」の三つに分類して学年掲示板に貼り、お互いの考えや思いを共有しました。



- ・ことば…話すことがあまりできなかったという反省から、もっと進んでペアの子や同じグループの子に話しかけ、楽しくしたい。自分から話しかけたい。
- ・心……緊張して楽しくできなかったので、ペアの子が笑ってもらえるようにしたい。ペアの子が気持ちよく過ごせるようにしたい。
- ・行動……車椅子の動かし方がうまくいかなかったので、ペアの子が安心して乗っていただけるようにしたい。スピードに気をつけたり、曲がり角でぶつけないようにしたりしたい。

② プレゼント作りをする(12月)

牛乳パックを使ってクリスマスブーツを作りました。ペアの友達が喜んでくれるように、色紙やリボンできれいに飾りつけしました。それぞれの個性あふれるすてきなブーツやブーツ型小物入れができました。



(6) 第2回なかよし交流会 (11月24日・ひいらぎ特別支援学校にて)

① グループ別活動

2回目の交流でペアの子と会ったとき、ひいらぎの子たちは、迎えてくれただけでなく、呼び名とともに満面の笑顔で手を振ってくれたことに、雁宿の子たちも「覚えていてくれた。」と、うれしそうに「〇〇ちゃんも元気だった？」と明るく答え、久しぶりに会った友達との再会に感激していました。その後、各教室ごとで楽しく活動しました。1回目よりも積極的にペアと関わり、目をしっかりと見ながら話したり、手を握りながら話しかけたり、絶えず声かけをしながら、仲良く遊んだりすることができました。ペアだけでなく、他の友達とも仲良く話ができるようになり、楽しい時間を過ごしました。



「だいじょうぶ。」



空気砲遊び



トランプで勝負!



爆弾ゲーム!



ボウリングをしよう



ねずみくんとおすもうゲーム



楽しみましょう!



つれた! 魚釣り大会



ゆっくり行こうね。

すてきなのをもらったよ。



② プレゼント交換・お別れ会

それぞれに作った心のこもったクリスマスブーツを照れくさそうに渡し、ペアの子からもすてきなプレゼント(リース・キーホルダーなど)を交換しました。

お別れのときには、小学部の全員が見送りに出てお互いにいつまでも手を振って別れを惜しんでいました。



気に入ってもらえるといいな。



楽しい一日でした。また、会えるといいね。

4 成果と課題

子どもたちほとんどが、これまでに身体が不自由な人と接した経験がなく、第1回の交流会では、どの子も緊張と戸惑いで表情も硬く、なかなか話しかけることができませんでした。時間が経つにつれて慣れてくると、お互い子ども同士、表情も明るくなり、遊びを楽しむ姿が見られるようになりました。「もっと話せばよかった。」「もっと相手の気持ちを考えて動かせばよかった。」「もっといっぱい笑顔にしてあげたかった。」と、交流を振り返り、できたこと・できなかったことを考え、「ペアの子を笑顔にしたい。」「普通の友達になりたい。」「ペアの子を喜ばせてあげたい。」という思いで2回目の交流をしました。交流会を終えて、「身体が不自由なだけで、自分たちと何も変わらない。」ということが分かったことやこれからの自分の行動について作文にまとめました。

この交流を通して、協働に関わり、共に生きていこうとする心や相手を思いやる心が芽生えたことが大きな成果です。この先、身体の不自由な人やお年寄り、悩みを抱えている人など、さまざまな人を理解し、共に生きていこうとする「心」や「学び合い」の力が、さらに大きく育ち、伸びていくことを期待するとともに強く願っています。